

佳作

やっと会えた

兵庫県神戸市立御影北小学校二年 林希実

この夏、とてもかん動的なことがありました。お母さんの妹（ふだんは「ぴいぴい」と、よんでいます）に赤ちゃんが生まれました。でも、生まれるまで大へんなことが、いっぱいあったのです。

四月のおわりごろ、おなかに赤ちゃんのいるおばさんは、あんせいにしなければ赤ちゃんが早くに生まれてきてしまうと、おいしゃさんに言われました。でも、おばさんには二才の子どももいて、家ではあんせいにできませんでした。そこで、さんふじんかに入院することになりました。今は、コロナがはやっていてお見まいに行つてあげられませんでした。今まで、毎日のように会つていたおばさんに会えなくて、かなしかつたです。おばさんが入院している間、二才のいとこは、おばあちゃんの家であずかつてもらつていました。まだ二才なのにかわいそうだ

など思いました。もし、わたしだったら、おばあちゃんはずきだけとすぐさみしいと思ひました。だからいとこといっぱいあそんであげたいと思ひました。

七月になつて赤ちゃんは、生まれていい大きさにそだちました。ぶじに生まれたと聞いて、わたしはほんとうにうれしかつたです。おばさんも赤ちゃんも元気でよかつたです。

でも、またもんだいがおきました。たいいんする日に、びょういんで赤ちゃんをおせわしてくれていたかんごしさんが、なんとコロナになつてしまったのです。赤ちゃんはすぐしらべてもらつてコロナじやなかつたけどとても心ばいでした。それに一週間も長く入院していなければいけなくなりました。今日、赤ちゃんに会えると思つていたのがかつかりしました。

そして、ついに赤ちゃんがたいいんする日になりました。一番に会いたくて朝早くおばあちゃんの家に行つてまぢました。げんかんのドアが開きました。「やっと会えた!!」。お母さんと妹とみんなは、はく手でむかえました。おばさんとおばあちゃんは、うれしくてないていました。それを見てわたしもと

てもうれしくなりました。赤ちゃんはすぐ小さくてかわいかつたです。少したつてから赤ちゃんをだつてきました。とてもかなくてあたたかかつたです。ずっとだつこしていたくらいでした。そしてこの小さい一つの命が生まれるということとは、とても大へんなことだとかんじました。わたしが生まれるときもきつとこんなふうにみんなが心ばいしたりよろこんだりしてくれたんだらうなと思つてうれしくなりました。